

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
社会の理解 I		介護福祉科/1年	2022/前期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	8回	15時間	必須	山崎 敏 (実務経験有)
授業の概要				
介護実践に必要な知識という観点から、社会福祉の歴史や思想を理解し、社会保障制度・介護保険制度・障害者総合支援制度等の法と制度について学ぶ。変動する地域生活の課題に関する専門的な知識を習得し、介護実践に必要な教養と総合的な判断力・豊かな人間性を養う。				
授業終了時の到達目標				
1. 福祉の理念を理解し、尊厳の保持や権利擁護の視点・専門職としての基盤となる倫理観を養う 2. 地域社会における生活（施設・在宅）とその支援について地域包括ケアの基礎的な知識を習得することができる 3. 社会保障の制度・施策の基本的な考え方やしくみについて基礎的な知識を習得することができる 4. 高齢者福祉・障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、基礎的な知識を習得することができる				
回	テーマ	内 容		
1	社会と生活のしくみ①	講義 生活とは：生活を幅広くとらえる ライフステージ・家庭生活の機能		
2	社会と生活のしくみ②	講義 生活とはたらしき方： ライフスタイルの変化・少子高齢化・働き方改革 家族機能と役割：家族の定義・家族観・家族の変容		
3	社会と生活のしくみ③	講義 社会・組織の機能と役割： 概念・ソーシャルネットワーク グループ支援・エンパワメント		
4	社会と生活のしくみ④	講義 地域・地域社会と地域社会における生活支援 概念と変化 都市化・過疎化、自助・互助・共助・公助 ソーシャルサポート・福祉の考え方 フォーマルサービス・インフォーマルサポート		
5	地域共生社会の実現に向けた制度や施策①	講義 地域社会における生活支援：地域福祉の発展 理念と推進、地域組織化活動		
6	地域共生社会の実現に向けた制度や施策①	講義 地域共生社会：社会的背景と理念 ソーシャルインクルージョン 地域共生社会の実現に向けた取り組み		
7	地域共生社会の実現に向けた制度や施策①	講義 地域包括ケア：理念とケアシステム		
8	期末試験	まとめ・振り返りテスト		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト 最新 介護福祉士養成講座 2「社会の理解」 中央法規出版 * 参考文献については、その都度提示		期末試験 授業態度	70.0% 30.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
社会の理解Ⅱ		介護福祉科/1年	2022/後期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	8回	15時間	必須	山崎 敏（実務経験有）

授業の概要

介護実践に必要な知識という観点から、社会福祉の歴史や思想を理解し、社会保障制度・介護保険制度・障害者総合支援制度等の法と制度について学ぶ。変動する地域生活の課題に関する専門的な知識を習得し、介護実践に必要な教養と総合的な判断力・豊かな人間性を養う。

授業終了時の到達目標

1. 社会保障の理念・対象・しくみについて基礎的な知識を習得することができる
2. 社会保障の法的根拠・法体系（施策）について基礎的な知識を習得することができる
3. 社会保障の現状と課題について理解することができる

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 社会保障の基本的な考え方	講義 社会保障制度の概要：基本的な考え方 社会保障の理念・役割と機能 セーフティネット（リスク分配） ナショナルミニマム/所得再分配
2	日本の社会保障制度の発達①	講義 日本の社会保障の歴史と考え方 憲法第25条（生存権） 13条（幸福追求権）との関係 国民皆保険と国民皆年金
3	日本の社会保障制度の発達②	講義 社会福祉の法体系：福祉六法 社会保障の見直しと変化 社会保険と社会扶助（防貧と救貧）
4	日本の社会保障制度のしくみ①	講義 社会保障のしくみ：サービス利用方式 給付費・財源 応益負担と応能負担・サービス給付と現金給付 保険者と被保険者
5	日本の社会保障制度のしくみ②	【確認テスト①】 講義 年金保険：種類と給付条件 国民年金と厚生年金（老齢・障害・遺族）
6	日本の社会保障制度のしくみ③	講義 医療保険：種類と給付方式 被用者保険・国民健康保険 後期高齢者医療制度 現金給付と医療給付 （高額医療費・傷病手当金など）
7	日本の社会保障制度のしくみ④ 現代社会と社会保障制度	講義 雇用保険と労働者災害補償保険 各種社会扶助：生活保護制度 人口動態の変化・少子高齢社会（高齢化率） 持続可能な社会保障のために
8	期末試験	まとめ・振り返りテスト

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
テキスト 最新 介護福祉士養成講座 2「社会の理解」 中央法規出版	確認テスト 期末試験 提出物 授業態度	30.0% 40.0% 10.0% 20.0%	
* 参考文献については、その都度提示			

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生活支援技術Ⅱ-1		介護福祉科/1年	2022/前期	講義・実技
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	木村 昌稔(実務経験有)
授業の概要				
尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する 【実務経験】福祉施設勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・介護を実践する対象、場によらず、さまざまな場面に必要とされる介護の基礎的な知識 ・技術を実践することができる ・対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程の展開ができる ・学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養うことができる 				
	テーマ	内 容		
1	介護福祉士が行う生活支援の意義・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援の考え方 ・生活の支援、自己決定の支援、楽しみや生きがいの支援 		
2	生活支援と介護過程	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援に活かすICF・活動・参加することの意味と価値 ・根拠に基づく生活支援技術 		
3	生活支援に共通する技術	<ul style="list-style-type: none"> ・説明・同意、観察、準備、評価 ・安全な介護 		
4	多職種との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援とチームアプローチ 		
5	自立に向けた居住環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・居住環境の社会・文化的、心理的、身体的意義と目的 		
6	自立に向けた居住環境の整備の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・住み慣れた地域での生活の継続 ・安全で住み心地のよい生活の場 ・快適な室内環境の整備 		
7	居住環境整備の基本となる知識	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅改修 ・バリアフリー・ユニバーサルデザイン 		
8	対象者の状態・状況に応じた留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・疾患、内部障害がある人の留意点 ・集団生活における工夫と留意点 ・在宅生活における工夫と留意点(家族、近隣との関係、多様な暮ら 		
9	移動の意義と目的	<ul style="list-style-type: none"> ・移動の心理的、身体的、社会、分化的意義と目的 		
10	自立に向けた移動介助の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・移動への動機づけ ・自由な移動を支える介護 ・福祉用具の種類と活用 		
11	移動・移乗の介護の基本となる知識と技術	<ul style="list-style-type: none"> ・ポディメカニクス ・車椅子の介助・体験 ・歩行の介助 		
12	移動・移乗の介護の基本となる知識と技術	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢の保持(ポジショニング、シーティング) ・基本動作(寝返り、起き上がり、立ち上がり) 		
13	ベッドメイキング	<ul style="list-style-type: none"> ・DVD ・ベッドメイキングの実践 		
14	自立に向けた生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ・自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術の振り返り 		
15	学力評価	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト 最新 介護福祉士養成講座 6「生活支援技術Ⅰ」 中央法規出版 7「生活支援技術Ⅱ」 中央法規出版		期末試験 出席率	70.0% 30.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生活支援技術Ⅱ-2		介護福祉科/1年	2022/後期	講義・実技
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	山崎敏・木村昌稔 (実務経験有)
授業の概要				
尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する 【実務経験】福祉施設勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・介護を実践する対象、場によらず、さまざまな場面に必要とされる介護の基礎的な知識 ・技術を実践することができる ・対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程の展開ができる ・学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養うことができる 				
回	テーマ	内 容		
1	自立に向けた身支度の介護	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者の能力を活用・発揮し、自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得する ・実践の根拠について、説明できる能力を身につける 		
2	身支度の意義と目的	<ul style="list-style-type: none"> ・身じたくの社会、文化的、心理的、身体的意義と目的 		
3	自立に向けた身支度の介護の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・その人らしさ、社会性を支える介護・生活習慣と装いの楽しみを支える介護・用具の活用と環境整備 		
4	自立に向けた身支度の介護の基本となる知識と技術	<ul style="list-style-type: none"> ・整容（洗面、スキンケア、整髪、ひげの手入れ、爪・耳の手入れ） 		
5	自立に向けた身支度の介護の基本となる知識と技術	<ul style="list-style-type: none"> ・自立に向けた介護実践のDVD 		
6	自立に向けた身支度の介護の基本となる知識と技術	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔の清潔 ・更衣介助 		
7	自立に向けた食事の介護	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の意義と目的 		
8	自立に向けた食事介護の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・美味しく食べることを支える介護・食事の工夫や形態・自助具の活用 		
9	自立に向けた食事介護の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で的確な食事介助の技法 		
10	自立に向けた食事介護の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の状態・状況に応じた介助の留意点 		
11	自立に向けた食事介護の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・自立に向けた介護実践のDVD 		
12	自立に向けた食事介護の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・変化の兆しの気づきと対応（誤嚥、窒息、脱水） 		
13	自立に向けた食事介護の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養マネジメント 		
14	自立に向けた介護	振り返り		
15	学力評価	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト 最新 介護福祉士養成講座 7「生活支援技術Ⅱ」 中央法規出版 *参考文献については、その都度提示		期末試験 出席率	70.0% 30.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生活支援技術Ⅱ-3		介護福祉科/1年	2022/後期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	山崎敏・木村昌稔 (実務経験有)
授業の概要				
ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けたADL、IADL、人生の最終段階における介護の意義と福祉用具活用について基礎的な知識・技術を学ぶ 【実務経験】 福祉施設勤務				
授業終了時の到達目標				
利用者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得、また実践の根拠について説明できる能力が身につく				
回	テーマ	内容		
1	排泄のしくみ、排泄介助のめやすと方法	排泄介助の注意点、方法、排泄用具の種類 (講義)		
2	オムツ交換	排尿、排便それぞれのオムツ交換 (実技)		
3	食事の環境について	高齢者にとっての食事環境とは、食事の形態 (講義、演習)		
4	食事介助(紙パンツ体験)	紙パンツを体験してみて、食事介助を行う (実技)		
5	爪切り、口腔ケア、髭剃り、髪の毛の乾かし方	整容に関して注意すべきこと (実技)		
6	入浴介助	麻痺のある場合の洗身、洗髪介助 (実技)		
7	入浴介助	特浴での全介助 (実技)		
8	足浴介助	イスに座っての足浴介助 (実技)		
9	清拭方法	部分清拭と全身清拭 (実技)		
10	ベッド上での洗髪介助	寝たきりの利用者に対しての洗髪 (実技)		
11	トイレ誘導	トイレ誘導を実際のトイレで行う (実技)		
12	ポータブル介助	夜間設定の介助 (実技)		
13	車いすへの移乗	復習も含め車いすへ移乗する(麻痺・全介助) (実技)		
14	期末試験	まとめ		
15	期末実技試験	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト 最新 介護福祉士養成講座 8「生活支援技術Ⅲ」 中央法規出版 *参考文献については、その都度提示		期末試験 出席率	70.0% 30.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生活支援技術Ⅱ-4		介護福祉科/2年	2022/前期	講義・演習
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	山下 百合子 (実務経験有) 渡辺 美佳代 (実務経験有)
授業の概要				
ICFの視点を生活支援に生かすことの意義を理解し、障害のある人が尊厳を保ちながら自己の能力を活用・発揮した本人主体の生活ができるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識と技術を学ぶ 【実務経験】 病院・福祉施設				
授業終了時の到達目標				
1. 医療職と連携して生活を支援するための障害や疾患の基礎的知識と介護上の知識を身につける 2. 障害のある人が生活に及ぼす影響について理解し、本人と家族が地域で自立した生活を継続するために必要な支援について考えることができる 3. 障害のある人が尊厳を保持しながら自己の能力を活用・発揮できる自立支援を安全に行うための技術を身につけることができる 4. 障害のある人に対して自立支援を安全に行うための観察力・判断力を身につけることができる 5. 障害のある人が自己の能力を活用・発揮し安全に自立できるための福祉用具を選択・活用することができる				
回	テーマ	内容		
1	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術 障害に応じた生活支援技術 肢体不自由（運動機能障害）に応じた介護	講義・演習 オリエンテーション 障害・疾病とともに生活する人を支えるには多職種連携 肢体不自由の理解 生活上の困りごと・観察の視点 支援の展開・事例 麻痺のある人への支援		
2	障害に応じた生活支援技術 視覚障害に応じた介護	講義・演習 視覚障害の理解 生活上の困りごと・観察の視点 支援の展開・事例		
3	障害に応じた生活支援技術 聴覚・言語障害に応じた介護	講義・演習 聴覚・言語障害の理解 生活上の困りごと・観察の視点 支援の展開・事例		
4	障害に応じた生活支援技術 内部障害 心臓機能障害に応じた介護	講義・演習 心臓機能障害の理解 生活上の困りごと・観察の視点 支援の展開・事例 人工ペースメーカーを使用している人への支援		
5	障害に応じた生活支援技術 内部障害 呼吸機能障害に応じた介護	講義・演習 呼吸機能障害の理解 生活上の困りごと・観察の視点 支援の展開・事例 在宅酸素療法を実施している人への支援		
6	障害に応じた生活支援技術 内部障害 腎臓機能障害に応じた介護	講義・演習 腎臓機能障害の理解 生活上の困りごと・観察の視点 支援の展開・事例 透析療法を実施している人への支援		
7	障害に応じた生活支援技術 内部障害 肝臓機能障害に応じた介護	講義・演習 肝臓機能障害の理解 生活上の困りごと・観察の視点 支援の展開・事例 B型・C型肝炎の人への支援の際の感染予防標準予防策		

回	テーマ	内 容		
8	障害に応じた生活支援技術 内部障害 膀胱・直腸機能障害に応じた介護	講義・演習 膀胱・直腸機能障害の理解 生活上の困りごと・観察の視点 支援の展開・事例 ストーマを増設している人への支援		
9	障害に応じた生活支援技術 内部障害 HIVによる免疫機能障害に応じた介護 重複障害（盲ろう）に応じた介護 重症心身障害に応じた介護	講義・演習 HIV感染症・重複障害・重症心身障害の理解 生活上の困りごと・観察の視点 支援の展開・事例		
10	障害に応じた生活支援技術 内部障害 小腸機能障害に応じた介護 障害に応じた生活支援技術Ⅱ 高次脳機能障害に応じた介護	講義・演習 小腸機能障害の理解 生活上の困りごと・観察の視点 支援の展開・事例 経管栄養を実施している人への支援 高次脳機能障害の理解 生活上の困りごと・観察の視点 支援の展開・事例 脳梗塞後の後遺症の人への支援		
11	障害に応じた生活支援技術Ⅱ 精神障害に応じた介護	講義・演習 精神障害の理解 生活上の困りごと・観察の視点 支援の展開・事例 統合失調症・気分障害（うつ病）の人への支援		
12	障害に応じた生活支援技術Ⅱ 知的・発達障害に応じた介護	講義・演習 知的障害・発達障害の理解 生活上の困りごと・観察の視点 支援の展開・事例		
13	障害に応じた生活支援技術Ⅱ 難病 筋萎縮性側索硬化症（ALS）に応じた介護	講義・演習 ALSの理解 生活上の困りごと・観察の視点 支援の展開・事例		
14	障害に応じた生活支援技術Ⅱ 難病 パーキンソン病に応じた介護	講義・演習 パーキンソン病の理解 生活上の困りごと・観察の視点 支援の展開・事例		
15	障害に応じた生活支援技術Ⅱ 難病 悪性リウマチ・筋ジストロフィーに応じた介護	講義・演習 悪性リウマチ・筋ジストロフィーの理解 生活上の困りごと・観察の視点 支援の展開・事例		
	期末試験	学力評価試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト 最新 介護福祉士養成講座 8「生活支援技術Ⅲ」 中央法規出版		確認テスト 期末試験 提出物 授業態度	20.0% 50.0% 20.0% 10.0%	
*参考文献については、その都度提示				

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護過程 1		介護福祉科/1年	2022/前期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	山崎 敏・木村 昌稔 (実務経験有)
授業の概要				
介護過程の意義・目的および介護過程の展開の一連のプロセスに関する基礎的理解 【実務経験】 福祉施設勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の意義、取り組みの背景について理解ができる ・介護過程において介護福祉士の役割を意識することができる ・利用者のそれぞれの心身の状態に応じたニーズの理解ができる 				
回	テーマ	内 容		
1	介護過程とは	誕生日を贈る場合から考える 【講義・演習】		
2	介護過程の取り組みの背景	介護観の変化・利用者像の変化・概念の変化 【講義】		
3	介護職に求められる役割	介護福祉士が目指すこと 【講義】		
4	介護過程の始まりは良い人間関係	介護過程において信頼関係の重要性 【講義】		
5	秘密の大切さ、意外な一面	すべてを知ることが良いことではない・ジョハリの窓 【講義】		
6	問題解決思考とは	原因分析と解決法 【講義】		
7	情報収集の手段	事実を推測する材料・情報源 【講義】		
8	ケアマネジメントと介護過程の整理	ケアプランと個別援助計画との違い 【講義】		
9	介護福祉士が目指すこと	介護福祉士の仕事・特徴 【講義】		
10	利用者共通の7つの視点	【講義】		
11	介護過程の実践的理解	介護過程の各段階 【講義】		
12	情報収集とニーズの整理	情報収集の必要性 【講義】		
13	情報の分析、ニーズの把握	ニーズとは何か・情報から読み取るニーズ 【講義】		
14	見通しをたてる	ニーズから解釈してみる 【講義】		
15	前期試験	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト 最新 介護福祉士養成講座 9「介護過程」 中央法規出版		期末試験 出席率	80.0% 20.0%	
*参考文献「事例で読み解く介護過程の展開」中央法規出版				

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護過程 2		介護福祉科/1年	2022/後期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	山崎 敏・木村 昌稔 (実務経験有)
授業の概要				
介護過程とICFの関係性、ICFを活用した介護過程、事例を通じた介護過程の展開（情報収集と生活課題の明確化） 【実務経験】 福祉施設勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集の大切さについて理解することができる ・ICFの展開の理解ができる ・事例を基に情報収集することができる ・事例を基に生活課題を明確化することができる 				
回	テーマ	内容		
1	ICFを使っでの表現	ICFを使って自分を表現してみよう 【講義】		
2	ICFの誕生背景、展開	ICF誕生の背景・ICIDH 【講義】		
3	ICFのプラス面とマイナス面を知る	ICFの特徴とICIDHとの違い 【講義】		
4	ICFの構成要素、マズローの7つの視点	ICFの構成 【講義】		
5	情報収集とは	ありのままの情報・生情報 【講義】		
6	情報の手段と信頼性	どうやって情報をとるのか 【講義】		
7	事例の情報をICFの要素に分類する	ICFの構成要素に分類・グループワーク 【講義・演習】		
8	介護過程の理解	小テストを含めた再理解 【講義・小テスト】		
9	課題抽出	事例を基に課題を抽出する 【講義・演習】		
10	アセスメントの仕方	情報の解釈、統合化、課題の明確化 【講義】		
11	情報収集において確認すべき事項	ニーズを把握する上で重要なこと・確認事項 【講義】		
12	介護計画シート記入の仕方	長期目標・短期目標の設定 【講義】		
13	実施および評価シート記入の仕方	支援内容を実施・評価のポイントについて 【講義】		
14	介護計画における優先順位とは	優先順位をつけていく・リスクマネジメント 【講義】		
15	期末試験	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト 最新 介護福祉士養成講座 9「介護過程」 中央法規出版		期末試験 出席率	80.0% 20.0%	
*参考文献「事例で読み解く介護過程の展開」中央法規出版				

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護過程3		介護福祉科/2年	2022/前期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	8回	15時間	必須	山崎 敏・木村 昌稔 (実務経験有)
授業の概要				
利用者の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する 【実務経験】 福祉施設勤務				
授業終了時の到達目標				
・チームケアにおける介護過程の意義が理解できる				
回	テーマ	内容		
1	事例検討	介護老人福祉施設で暮らすYさんの事例 【講義】		
2	ICFの展開	事例の情報をICFの構成要素に落とし込む 【講義・演習】		
3	アセスメントシート	事例をアセスメントシートに落とし込む 【講義・演習】		
4	生活課題について	事例の生活課題の抽出、課題の明確化 【講義・演習】		
5	優先順位の検討	事例からニーズにおける優先順位を決める 【講義・演習】		
6	介護計画の立案	長期目標、短期目標の設定 【講義・演習】		
7	支援内容の設定	具体的支援内容を決めていく 【講義・演習】		
8	前期試験	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト 最新 介護福祉士養成講座 9「介護過程」 中央法規出版		期末試験 出席率	80.0% 20.0%	
* 参考文献「事例で読み解く介護過程の展開」中央法規出版				

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護過程4		介護福祉科/2年	2022/後期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	山崎 敏・木村 昌稔 (実務経験有)
授業の概要				
個別事例を通じた介護過程の展開、計画、実践、ケーススタディに向けた取り組み 【実務経験】 福祉施設勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・担当利用者のケースを事例研究としてまとめることができる ・担当利用者を介護過程として一連の流れとして見ていき、支援する具体的な方法を学ぶことができる 				
回	テーマ	内容		
1	介護計画の立案	実践できる計画になっているか 【講義・演習】		
2	生活課題の抽出	実習担当利用者の生活課題の抽出 【講義・演習】		
3	介護計画を作成してみる	実習担当利用者の介護計画を作成してみる 【講義・演習】		
4	事例検討	介護老人福祉施設で生活する利用者の事例 【講義・演習】		
5	事例から情報の整理	Tさんの情報をICFの構成要素と併せて考える 【講義・演習】		
6	事例から課題の抽出	Tさんの事例から課題を出す 【講義・演習】		
7	課題の明確化、計画書の作成	Tさんの事例から課題を明確にし、計画書を作る 【講義・演習】		
8	計画書の作成	目標の設定、具体的支援内容を決める 【講義・演習】		
9	介護の実施、評価	事例における介護の実施、評価を書く 【講義・演習】		
10	再アセスメント	再アセスメントの必要性 【講義・演習】		
11	事例研究とは	事例研究から学べること 【講義】		
12	事例研究について	結果と考察 【講義】		
13	事例研究について	引用文献と参考文献について 【講義】		
14	事例研究について	担当利用者を一連の流れから理解する 【講義】		
15	期末試験	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト 最新 介護福祉士養成講座 9「介護過程」 中央法規出版		期末試験 出席率	80.0% 20.0%	
*参考文献「事例で読み解く介護過程の展開」中央法規				

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
事例研究		介護福祉科/2年	2022/後期	演習
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	23回	45時間	必須	山崎 敏・木村 昌稔 (実務経験有)
授業の概要				
介護過程の展開の一連の流れを基に事例をまとめ、研究することで実践的な学習を深める 【実務経験】 福祉施設勤務				
授業終了時の到達目標				
施設実習から介護過程の展開、さらに観察から考察・研究という一連の流れを通じて介護福祉士としての専門性を磨く				
回	テーマ	内 容		
1	事例研究から学べること	講義		
2	研究過程を理解する	講義		
3	研究の進め方	講義		
4	介護の実践と結果	講義		
5	論文構想の作成	講義・演習		
6	論文構想の作成	講義・演習		
7	論文を書く	講義・演習		
8	論文を書く	講義・演習		
9	事例の紹介	講義・演習		
10	研究内容	講義・演習		
11	考察・結論など	講義・演習		
12	考察・結論など	講義・演習		
13	考察・結論など	講義・演習		
14	おわりに・謝辞	講義・演習		
15	おわりに・謝辞	講義・演習		

回	テーマ	内 容		
16	文献・資料	講義・演習		
17	文献・資料	講義・演習		
18	タイトル、目次について	講義・演習		
19	タイトル、目次について	講義・演習		
20	パワーポイント作成	講義		
21	パワーポイント作成	講義・演習		
22	パワーポイント作成	講義・演習		
23	総まとめ	講義		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト 最新 介護福祉士養成講座 9「介護過程」 中央法規出版 *参考文献については、その都度提示		課題・プレゼン 出席率	90.0% 10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
発達と老化の理解 I		介護福祉科/1年	2022/後期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	8回	15時間	必須	山下 百合子(実務経験有) 渡辺 美佳代(実務経験有)
授業の概要				
人間の成長と発達の過程における身体的・心理的・社会的変化と老化が生活に及ぼす影響について学び、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的知識を習得する 【実務経験】病院・福祉施設				
授業終了時の到達目標				
1. 心身の構造や機能と発達段階とその課題について理解できる 2. 身体的・心理的・社会的側面を総合的にとらえることができる 3. 認知症や障害のある人の生活を支えるため、医療職と連携し支援を行うための基礎的な知識を習得できる 4. 認知症や障害のある人の心身機能が生活に及ぼす影響について理解できる 5. 本人と家族が地域で自立した生活を継続するために必要な心理・社会的な支援について基礎的な知識を習得することができる				
1	老年の特徴と発達課題①	講義	オリエンテーション 老年期の定義 WHO定義・老人福祉法	
2	老年の特徴と発達課題② 老化に伴う身体的な変化と生活への影響	講義	老化とは 老化の特徴 老化に伴う心身の変化の特徴 生理機能・予備力・回復力・防衛力・免疫機能	
3	老年の特徴と発達課題③ 老化に伴う社会的な変化と生活への影響 高齢者と健康①	講義	老年期の発達課題 喪失体験・人格と尊厳 日常生活への影響 老々介護・孤独死・エイジズム 高齢者の健康 サクセスフルエイジング	
4	老年の特徴と発達課題④ 高齢者と健康②	講義	老年期の発達課題 セクシャリティ 老年期をめぐる今日的課題 日本の高齢化・高齢者の多様性 高齢者の症状と疾患の特徴 閉じこもり・廃用症候群・老年症候群	
5	老化に伴う心理的な変化と生活への影響①	講義	認知機能の変化 記憶の種類と加齢に伴う変化	
6	老化に伴う心理的な変化と生活への影響②	講義	知的機能の変化 流動性知能と結晶性知能・動機付け・適応規制	
7	高齢者と健康③ 老化に伴う身体的な変化と生活への影響② 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点①	講義	高齢者の症状と疾患の特徴 慢性経過・複数疾患・非典型的な症状・痛み等 老化に伴う心身の変化の特徴 フレイル 高齢者の症状と疾患の特徴(筋・骨格系) 骨粗鬆症・骨折・変形性膝関節症・関節リウマチ 変形性脊椎症・脊柱管狭窄症など	
8	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点②	講義	高齢者の症状と疾患の特徴(筋・骨格系) 骨粗鬆症・骨折・変形性膝関節症・関節リウマチ 変形性脊椎症・脊柱管狭窄症など	
	試験	学力評価試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト 最新 介護福祉士養成講座 12「発達と老化の理解」 中央法規出版		確認テスト 期末試験 提出物 授業態度	20% 50% 20% 10%	
* 参考文献については、その都度提示				

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
発達と老化の理解Ⅱ		介護福祉科/1年	2022/後期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	山下 小百合 (実務経験有) 渡辺 美佳代 (実務経験有)

授業の概要

人間の成長と発達の過程における身体的・心理的・社会的変化と老化が生活に及ぼす影響について学び、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的知識を習得する
【実務経験】病院・福祉施設

授業終了時の到達目標

1. 心身の構造や機能と発達段階とその課題について理解できる
2. 身体的・心理的・社会的側面を総合的にとらえることができる
3. 認知症や障害のある人の生活を支えるため、医療職と連携し支援を行うための基礎的な知識を習得できる
4. 認知症や障害のある人の心身機能が生活に及ぼす影響について理解できる
5. 本人と家族が地域で自立した生活を継続するために必要な心理・社会的な支援について基礎的な知識を習得することができる

1	老化に伴う身体的な変化と生活への影響③ 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点③-1	講義 オリエンテーション 老化に伴う心身の変化の特徴 脳神経 高齢者の症状と疾患の特徴 (脳・神経系) パーキンソン病・脳血管疾患 (脳梗塞・脳出血) 失語・失認・構音障害
2	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点③-2	講義 高齢者の症状と疾患の特徴 (脳・神経系) パーキンソン病・脳血管疾患 (脳梗塞・脳出血) 失語・失認・構音障害
3	老化に伴う身体的な変化と生活への影響④ 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点④-1	講義 老化に伴う心身の変化の特徴 感覚器 高齢者の症状と疾患の特徴 (感覚器系) 伝音性難聴と感音性難聴など 白内障・緑内障・加齢黄斑変性症など 老人性皮膚掻痒症・白癬・疥癬 (感染症) など
4	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点④-2	講義 高齢者の症状と疾患の特徴 (感覚器系) 伝音性難聴と感音性難聴など 白内障・緑内障・加齢黄斑変性症など 老人性皮膚掻痒症・白癬・疥癬 (感染症) など
5	老化に伴う身体的な変化と生活への影響⑤ 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑤-1	講義 老化に伴う心身の変化の特徴 循環器 高齢者の症状と疾患の特徴 (循環器系) 高血圧・不整脈・心筋梗塞と狭心症
6	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑤-2	講義 高齢者の症状と疾患の特徴 (循環器系) 高血圧・不整脈・心筋梗塞と狭心症
7	老化に伴う身体的な変化と生活への影響⑥ 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑥-1	講義 老化に伴う心身の変化の特徴 呼吸器 高齢者の症状と疾患の特徴 (呼吸器系) 肺炎 (誤嚥性含む)・喘息・呼吸困難 インフルエンザ (感染症) など
8	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑥-2	講義 高齢者の症状と疾患の特徴 (呼吸器系) 肺炎 (誤嚥性含む)・喘息・呼吸困難 インフルエンザ (感染症) など

9	<p>老化に伴う身体的な変化と生活への影響⑦</p> <p>高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑦</p>	<p>講義 老化に伴う心身の変化の特徴 消化器</p> <p>高齢者の症状と疾患の特徴（消化器系） 消化性潰瘍・逆流性食道炎・肝硬変 感染性胃腸炎・胆のう炎胆管炎（感染症）など</p>		
10	<p>老化に伴う身体的な変化と生活への影響⑧</p> <p>高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑧</p>	<p>講義 老化に伴う心身の変化の特徴 腎・泌尿器</p> <p>高齢者の症状と疾患の特徴（腎泌尿器系） 尿路感染症・前立腺肥大・腎不全など</p>		
11	<p>老化に伴う身体的な変化と生活への影響⑨</p> <p>高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑨</p>	<p>講義 老化に伴う心身の変化の特徴 内分泌</p> <p>高齢者の症状と疾患の特徴（内分泌・代謝系） 糖尿病・脂質異常症・痛風など</p>		
12	<p>高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑩</p>	<p>講義 高齢者の症状と疾患の特徴（歯・口腔） 虫歯・歯周病・ドライマウスなど</p>		
13	<p>高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑪</p>	<p>講義 高齢者の症状と疾患の特徴（悪性新生物） 胃がん・肺がん・大腸がんなど</p>		
14	<p>高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑫</p>	<p>講義 高齢者の症状と疾患の特徴（精神疾患・その他） うつ病・統合失調症など</p>		
15	<p>高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑬</p>	<p>講義 高齢者の症状と疾患の特徴（精神疾患・その他） 熱中症・脱水症・貧血など</p>		
	試験	学力評価試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<p>テキスト 最新 介護福祉士養成講座 12「発達と老化の理解」 中央法規出版</p> <p>*参考文献については、その都度提示</p>		<p>確認テスト 期末試験 提出物 授業態度</p>	<p>20% 50% 20% 10%</p>	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
発達と老化の理解Ⅲ		介護福祉科/2年	2022/後期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	8回	15時間	必須	岩田 綾美 (実務経験有) 渡辺 美佳代 (実務経験有)
授業の概要				
人間の成長と発達の過程における身体的・心理的・社会的変化と老化が生活に及ぼす影響について学び、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的知識を習得する 【実務経験】病院・福祉施設				
授業終了時の到達目標				
1. 心身の構造や機能と発達段階とその課題について理解できる 2. 身体的・心理的・社会的側面を総合的にとらえることができる 3. 認知症や障害のある人の生活を支えるため、医療職と連携し支援を行うための基礎的な知識を習得できる 4. 認知症や障害のある人の心身機能が生活に及ぼす影響について理解できる 5. 本人と家族が地域で自立した生活を継続するために必要な心理・社会的な支援について基礎的な知識を習得することができる				
1	人間の成長と発達の基礎的知識①	講義	オリエンテーション 成長・発達の考え方と原則・法則	
2	人間の成長と発達の基礎的知識② 人間の発達段階と発達課題①	講義	成長・発達に影響する要因 発達理論 胎児期～老年期・発達理論	
3	人間の発達段階と発達課題②	講義	身体的機能の成長と発達	
4	人間の発達段階と発達課題③	講義	心理的機能の発達 (ピアジェ) 社会的機能の発達 (ピアジェ・エリクソン)	
5	発達段階別にみた特徴的な疾患・障害①	講義	胎児期・乳児期の疾患や障害 染色体異常・脳性麻痺・先天性代謝異常	
6	発達段階別にみた特徴的な疾患・障害②	講義	幼児期・学童期の疾患や障害 知的障害・発達障害・外傷・感染症	
7	発達段階別にみた特徴的な疾患・障害③	講義	思春期・青年期・成人期の疾患や障害 (1) 統合失調症・気分障害・摂食障害 生活習慣病・更年期障害・自殺	
8	発達段階別にみた特徴的な疾患・障害④	講義	思春期・青年期・成人期の疾患や障害 (2) 統合失調症・気分障害・摂食障害 生活習慣病・更年期障害・自殺	
	期末試験	学力評価試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト 最新 介護福祉士養成講座 12「発達と老化の理解」 中央法規出版		期末試験 小テスト 提出物 授業態度	60.0% 20.0% 10.0% 10.0%	
* 参考文献については、その都度提示				

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
認知症の理解 I		介護福祉科/1年	2022/後期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	渡辺 美佳代 (実務経験有)

授業の概要

認知症の人の心理・身体機能・社会面に関する基礎的な知識を習得し、認知症の人を中心にすえ、本人や家族・地域の力を生かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を学ぶ
【実務経験】 病院・福祉施設

授業終了時の到達目標

1. 認知症ケアの歴史・現状と今後の課題について理解することができる
2. 認知症による障害・原因となる疾患と検査や治療について理解できる
3. 認知症の特徴的な心理と行動について理解することができる
4. 認知症と間違いやすい症状について理解することができる
5. 機能の変化と日常生活への影響について理解することができる
6. 認知症の人の家族への支援・地域のサポート体制について理解することができる

回	テーマ	内容
1	認知症の基礎的理解① 認知症ケアの歴史と理念	講義 オリエンテーション 歴史的背景とケアの理念・権利擁護 認知症の高齢者数の推移と支援対策 【DVD視聴】
2	認知症の基礎的理解② 認知症とは何か	講義 認知症の定義・診断基準・特徴と進行 認知症の人の心理 (パーソンセンタード・ケア) 【DVD視聴】
3	認知症の基礎的理解③ 脳のしくみ (1)	講義 脳の構造と機能 記憶のしくみと知能 (流動性知能と結晶性知能) 認知症が生じるしくみと症状
4	認知症の基礎的理解④ 脳のしくみ (2)	講義 認知症・せん妄・うつとの違い 軽度認知症 (MCI) とは
5	認知症の症状・診断・治療・予防	講義 中核症状の理解 加齢にもの忘れと認知症の記憶障害の違い 中核症状: 記憶障害 (記憶の種類と加齢による変化)
6	認知症の症状・診断・治療・予防	講義 中核症状: 見当識障害・遂行機能障害 社会的認知障害 高次脳機能障害 (失語失認失行)
7	認知症の症状・診断・治療・予防	講義 BPSDの理解 BPSDとは何か BPSDを誘発する原因と対応
8	認知症の人へのケア	講義 代表的なBPSDと対処法 徘徊・物取られ妄想・もの集め・暴言暴力
9	認知症の症状・診断・治療・予防	講義 生活障害の理解 認知症が生活に与える影響 (ADL・IADL) 認知症の診断基準 認知症の評価スケール HDS-R・MMSE・CDR・FAST・日常生活自立度判定基準
10	認知症の症状・診断・治療・予防	講義 アルツハイマー型認知症 病態・症状・経過・生活障害とケア 【DVD視聴】 【事例演習】 対応をグループで考え実際に実践発表 もの取られ妄想・帰宅欲求・食事要求・若返り

回	テーマ	内容		
11	認知症の症状・診断・治療・予防	講義 血管性認知症 病態・症状・経過・生活障害とケア		
12	認知症の症状・診断・治療・予防	講義 レビー小体型認知症 病態・症状・経過・生活障害とケア 【DVD視聴】 【事例演習】 対応をグループで考え実際に実践発表 幻視・パーキンソン症状・自律神経失調		
13	認知症の症状・診断・治療・予防	講義 前頭側頭型認知症（ピック病） 病態・症状・経過・生活障害とケア 【事例演習】 対応をグループで考え実際に実践発表 常同行動・万引き		
14	認知症の症状・診断・治療・予防	講義 若年性認知症 病態・症状・経過・生活障害とケア・社会支援の体勢 治療可能な認知症 正常圧水頭症・慢性硬膜下けしゅ その他 クロイツフェルト・ヤコブ病 【DVD視聴】		
15	認知症の症状・診断・治療・予防⑦ 認知症の治療薬と予防	講義 薬の作用と副作用 発症リスクを高める要因と予防		
	期末試験	学力評価試験		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	テキスト 最新 介護福祉士養成講座 13「認知症の理解」 中央法規出版 *参考文献については、その都度提示	確認テスト 期末試験 提出物 授業態度	20.0% 50.0% 20.0% 10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
認知症の理解Ⅱ		介護福祉科/2年	2022/前期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	渡辺 美佳代 (実務経験有)

授業の概要

認知症の人の心理・身体機能・社会面に関する基礎的な知識を習得し、認知症の人を中心にすえ、本人や家族・地域の力を生かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を学ぶ
【実務経験】 病院・福祉施設

授業終了時の到達目標

1. 認知症ケアの歴史・現状と今後の課題について理解することができる
2. 認知症による障害・原因となる疾患と検査や治療について理解できる
3. 認知症の特徴的な心理と行動について理解することができる
4. 認知症と間違いやすい症状について理解することができる
5. 機能の変化と日常生活への影響について理解することができる
6. 認知症の人の家族への支援・地域のサポート体制について理解することができる

回	テーマ	内容
1	障害を抱えて生きることへの支援	講義 認知症を取り巻く状況 認知症ケアの理念と視点・関わりと気づき 認知症当事者の視点から見えるもの 認知症の人の思い・体験が生活に及ぼす影響 思いを尊重したサポート方法
2	認知症ケアの実際	講義 意思決定のための支援 パーソンセンタードケアに基づいた実践
3	認知症ケアの実際	講義 認知症の特性を踏まえたアセスメント・ツール センター方式・ひもときシート 健康状態のアセスメント 【事例演習】
4	認知症ケアの実際	講義 認知症の人とのコミュニケーション コミュニケーションの基本的理解 コミュニケーションの実際 【DVD視聴】
5	認知症ケアの実際	講義 認知症の人への生活支援・環境づくり 排泄のケア 【事例演習】 失行・失認・機能的尿失禁
6	認知症ケアの実際	講義 認知症の人への生活支援・環境づくり 入浴清潔のケア 【事例演習】
7	認知症ケアの実際	講義 認知症の人への生活支援・環境づくり 休息と睡眠のケア 【事例演習】
8	認知症ケアの実際	講義 認知症の人への生活支援・環境づくり 活動と生きがいのケア 【事例演習】
9	認知症ケアの実際	講義 認知症の人への生活支援・環境づくり BPSDのケア 【事例演習】

回	テーマ	内 容		
10	認知症ケアの実際	講義 認知症の人への人生の最終段階のケア・環境づくり 終末期医療と介護・課題 【事例演習】		
11	認知症ケアの実際	講義 認知症の人への様々なアプローチ リアリティ・オリエンテーション (RO) 回想法・音楽療法・バリデーショ療法など 【DVD視聴】 【演習】		
12	介護者支援	講義 家族への支援 認知症の人を介護する家族の状況 身体的・心理的・社会的負担 レスパイトケア・エンパワメント		
13	介護者支援	講義 介護福祉職への支援 働きやすい職場環境の整備 ケアモデルを実践するための環境整備		
14	認知症の人の地域生活支援	講義 制度・サービス・器官・地域づくり 新オレンジプラン・地域包括ケアシステム 認知症サポーター・認知症カフェ 若年性認知症の人への支援 認知症当事者への支援		
15	認知症の人の地域生活支援	講義 多職種連携と協働 国・地方公共団体による認知症対策 ライフサポートモデル		
	期末試験	学力評価試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト 最新 介護福祉士養成講座 13「認知症の理解」 中央法規出版 *参考文献については、その都度提示		確認テスト 期末試験 提出物 授業態度	20.0% 50.0% 20.0% 10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
障害の理解 I		介護福祉科/1年	2022/後期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	鈴木 和美 (実務経験有) 渡辺 美佳代 (実務経験有)

授業の概要

障害をもつ人の心理・身体機能・社会的側面に関する基礎的な知識を習得し、障害のある人の地域での生活を理解し本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を学ぶ
【実務経験】 病院・福祉施設

授業終了時の到達目標

1. 様々な障害の心身の構造や機能・発達段階とその過程について理解し、生活を支援するための介護上の知識を身に付けることができる
2. 医療職と連携して支援するための障害や疾患の基礎的知識を習得することができる
3. 障害のある人が生活に及ぼす影響について理解し、本人と家族が地域で自立した生活を継続するために必要な社会資源の活用方法について理解することができる
4. 社会福祉の基本理念について理解することができる

回	テーマ	内 容
1	障害別の基礎的理解と 特性に応じた支援 I ① 視覚障害	講義 オリエンテーション 視覚障害のある人の理解 疾患の理解：障害の種類・原因と症状 心理面・生活面・支援
2	障害別の基礎的理解と 特性に応じた支援 I ② 聴覚障害	講義 聴覚障害のある人の理解 疾患の理解：障害の種類・原因と症状 心理面・生活面・支援
3	障害別の基礎的理解と 特性に応じた支援 I ③ 言語障害	講義 言語覚障害のある人の理解 疾患の理解：障害の種類・原因と症状 心理面・生活面・支援
4	障害別の基礎的理解と 特性に応じた支援 I ④ 重複障害	講義 重複障害のある人の理解 疾患の理解：障害の種類・原因と症状 心理面・生活面・支援
5	障害別の基礎的理解と 特性に応じた支援 I ⑤ 内部障害（心臓機能）	講義 内部障害（心臓機能障害）のある人の理解 疾患の理解：障害の種類・原因と症状 心理面・生活面・支援
6	障害別の基礎的理解と 特性に応じた支援 I ⑥-1 内部障害（呼吸機能）	講義 内部障害（呼吸機能障害）のある人の理解 疾患の理解：障害の種類・原因と症状 心理面・生活面・支援
7	障害別の基礎的理解と 特性に応じた支援 I ⑥-2 内部障害（呼吸機能）	講義 内部障害（呼吸機能障害）のある人の理解 疾患の理解：障害の種類・原因と症状 心理面・生活面・支援
8	障害別の基礎的理解と 特性に応じた支援 I ⑦ 内部障害（腎機能）	講義 内部障害（腎機能障害）のある人の理解 疾患の理解：障害の種類・原因と症状 心理面・生活面・支援
9	障害別の基礎的理解と 特性に応じた支援 I ⑧ 内部障害（膀胱）	講義 内部障害（膀胱・直腸機能障害）のある人の理解 疾患の理解：障害の種類・原因と症状 心理面・生活面・支援
10	障害別の基礎的理解と 特性に応じた支援 I ⑨ 内部障害（直腸）	講義 内部障害（膀胱・直腸機能障害）のある人の理解 疾患の理解：障害の種類・原因と症状 心理面・生活面・支援

回	テーマ	内 容		
11	障害別の基礎的理解と 特性に応じた支援Ⅰ⑩ 内部障害（小腸）	講義	内部障害（小腸機能障害）のある人の理解 疾患の理解：障害の種類・原因と症状 心理面・生活面・支援	
12	障害別の基礎的理解と 特性に応じた支援Ⅰ⑪ 内部障害（HIV）	講義	内部障害（HIV）のある人の理解 疾患の理解：障害の種類・原因と症状 心理面・生活面・支援	
13	障害別の基礎的理解と 特性に応じた支援Ⅰ⑫ 内部障害（肝臓）	講義	内部障害（肝臓機能障害）のある人の理解 疾患の理解：障害の種類・原因と症状 心理面・生活面・支援	
14	障害別の基礎的理解と 特性に応じた支援Ⅰ⑬ 重症心身障害	講義	重症心身障害の人の理解 疾患の理解：障害の原因と症状 心理面・生活面・支援	
15	障害別の基礎的理解と 特性に応じた支援Ⅱ① 知的障害	講義	知的障害の人の理解 疾患の理解：障害の種類・原因と症状 心理面・生活面・支援	
	試験	学力評価試験		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	テキスト 最新 介護福祉士養成講座 14「障害の理解」 中央法規出版 * 参考文献については、その都度提示	確認テスト 期末試験 提出物 授業態度	20.0% 50.0% 20.0% 10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
障害の理解Ⅱ		介護福祉科/2年	2022/前期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	山下 百合子 (実務経験有) 渡辺 美佳代 (実務経験有)

授業の概要

障害をもつ人の心理・身体機能・社会的側面に関する基礎的な知識を習得し、障害のある人の地域での生活を理解し本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を学ぶ
【実務経験】 病院・福祉施設

授業終了時の到達目標

1. 様々な障害の心身の構造や機能・発達段階とその過程について理解し、生活を支援するための介護上の知識を身に付けることができる
2. 医療職と連携して支援するための障害や疾患の基礎的な知識を習得することができる
3. 障害のある人が生活に及ぼす影響について理解し、本人と家族が地域で自立した生活を継続するために必要な社会資源の活用方法について理解することができる
4. 社会福祉の基本理念について理解することができる

回	テーマ	内容
1	障害の概念と障害者福祉の基本理念① 障害の概念	講義 障害の定義 ICIDHからICFへ 障害のある人への手帳 ノーマライゼーション・リハビリテーション インクルージョンなど
2	障害の概念と障害者福祉の基本理念② 障害者福祉に関する制度 介護保険制度	講義 意思決定支援・成年後見制度 障害者総合支援法・障害者虐待防止法など 障害者福祉制度と介護保険制度の違い
3	連携と協働	講義 地域サポート体制・チームアプローチ
4	家族への支援	講義 家族支援・介護力評価と負担軽減 レスパイトケア・チームアプローチ
5	障害別の基礎的理解と 特性に応じた支援Ⅰ 肢体不自由（運動機能障害）（1）	講義 肢体不自由（脳血管障害・脳性麻痺・ 筋ジストロフィー）のある人の理解 疾患の理解：障害の原因と症状・後遺症 心理面・生活面・支援
6	障害別の基礎的理解と 特性に応じた支援Ⅰ 肢体不自由（運動機能障害）（2）	講義 肢体不自由（脊髄損傷・関節リウマチ）のある人 の理解 疾患の理解：障害の原因と症状 心理面・生活面・支援
7	障害別の基礎的理解と 特性に応じた支援Ⅰ 障害のある人の心理	講義 欲求・適応機制・障害受容過程・支援
8	障害別の基礎的理解と 特性に応じた支援Ⅱ 高次脳機能障害	講義 高次脳機能障害のある人の理解 疾患の理解：障害の原因と症状 心理面・生活面・支援
9	障害別の基礎的理解と 特性に応じた支援Ⅱ 精神障害（1）	講義 精神障害のある人の理解 疾患の理解：障害の原因と症状 心理面・生活面・支援
10	障害別の基礎的理解と 特性に応じた支援Ⅱ 精神障害（2）	講義 精神障害のある人の理解 疾患の理解：障害の原因と症状 心理面・生活面・支援

回	テ ー マ	内 容		
11	障害別の基礎的理解と 特性に応じた支援Ⅱ 発達障害	講義	発達障害のある人の理解 疾患の理解：障害の原因と症状 心理面・生活面・支援	
12	障害別の基礎的理解と 特性に応じた支援Ⅱ④ 難病（1）	講義	難病の定義 難病（筋萎縮性側索硬化症：ALS）の人の理解 疾患の理解：障害の原因と症状 心理面・生活面・支援	
13	障害別の基礎的理解と 特性に応じた支援Ⅱ⑥ 難病（2）	講義	難病（パーキンソン病）の人の理解 疾患の理解：障害の原因と症状 心理面・生活面・支援	
14	障害別の基礎的理解と 特性に応じた支援Ⅱ⑥ 難病（3）	講義	難病（脊髄小脳変性症・筋ジストロフィー）の人の理解 疾患の理解：障害の原因と症状 心理面・生活面・支援	
15	障害別の基礎的理解と 特性に応じた支援Ⅱ⑥ 難病（4）	講義	難病（後縦靭帯骨化症・潰瘍性大腸炎・ クローン病・悪性リウマチ）の人の理解 疾患の理解：障害の原因と症状 心理面・生活面・支援	
	期末試験	学力評価試験		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	テキスト 最新 介護福祉士養成講座 14「障害の理解」 中央法規出版 * 参考文献については、その都度提示	確認テスト 期末試験 提出物 授業態度	20.0% 50.0% 20.0% 10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
医療的ケアⅠ		介護福祉科/1年	2022/後期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	8回	15時間	必須	渡辺 美佳代（実務経験有）
授業の概要				
医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう必要な知識・技術を習得する 【実務経験】 病院・福祉施設				
授業終了時の到達目標				
1. 介護福祉士が医行為の一部を行うことになった制度の背景を理解することができる 2. 医療的ケアの倫理上の留意点・清潔保持と感染予防について理解することができる 3. 応急手当・救急蘇生法といった安全な療養生活のための基礎知識を理解することができる 4. 健康状態の把握・急変状態の対応について理解することができる				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション 人間と社会 保健医療制度とチーム医療	講義	医療的ケアの背景・制度 医行為とは何か・介護福祉士の実施要件 チーム医療と介護職員との連携 その他制度（介護保険法・障害者総合支援法他）	
2	安全な療養生活①	講義 演習	医療的ケアの安全な実施 リスクマネジメント（ヒヤリハット・アクシデント） 事故報告書の作成（グループワーク）	
3	安全な療養生活② 救急蘇生法	講義	救急蘇生の重要性・手順の留意点 【DVD視聴】AED使用の一次救命	
4	安全な療養生活③ 応急手当	講義	応急手当の種類と方法	
5	清潔保持と感染予防① 感染管理と予防 スタンダードプリコーション	講義 演習	感染が成立するしくみ・感染の種類 スタンダードプリコーションの意味と重要性 【DVD視聴】衛生学的手洗い 衛生学的手洗い	
6	清潔保持と感染予防② 滅菌と消毒 職員の感染予防	講義 演習	滅菌と消毒の違い・薬剤 職員の感染予防・健康管理（持込・持出） 【DVD視聴】滅菌手袋の装着方法 滅菌手袋の装着	
7	健康状態の把握① 健康状態を把握する項目（心身） 医療行為ではないと考えられる行為	講義	バイタルサインの種類と正常値 医療職へ報告が必要な状態・急変状態とは 医療行為ではないと考えられる行為とは	
8	健康状態の把握② バイタルサイン	演習	バイタルサイン測定（グループワーク）	
	期末試験	学力評価試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト 最新 介護福祉士養成講座 15「医療的ケア」 中央法規出版 *参考文献については、その都度提示		確認テスト 期末試験 提出物 授業態度	20.0% 50.0% 20.0% 10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
医療的ケアⅡ		介護福祉科/2年	2022/前期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	23回	45時間	必須	渡辺 美佳代(実務経験有)

授業の概要

医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう必要な知識と技術を習得する 【実務経験】 病院・福祉施設

授業終了時の到達目標

1. 介護福祉士が医行為の一部を行うことになった制度の背景を理解することができる
2. 医療的ケアの倫理上の留意点・清潔保持と感染予防について理解することができる
3. 応急手当・救急蘇生法といった安全な療養生活のための基礎知識を理解することができる
4. 健康状態の把握・急変状態の対応について理解することができる

回	テーマ	内容
1	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引の基礎知識① 呼吸のしくみ・いつもと違う呼吸状態	講義 呼吸のしくみとはたらき・呼吸の異常と観察点 【DVD視聴】チアノーゼ・努力性呼吸・呼吸不全
2	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引の基礎知識② 痰を出すしくみ・喀痰吸引が必要な状態	講義 喀痰が貯留している状態とは 喀痰を外に出すしくみ 喀痰吸引が必要な状態と観察のポイント
3	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引の基礎知識③ 人工呼吸器が必要な状態	講義 人工呼吸器が必要な状態とは 人工呼吸器の種類・しくみと観察点 緊急時の医療職との連携 【DVD視聴】人工呼吸療法
4	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引の基礎知識④ 子どもの喀痰吸引 吸引を受ける本人家族の気持ち	講義 喀痰吸引が必要な子どもとは 子どもの喀痰吸引の留意点と観察ポイント 吸引を受ける利用者・家族の気持ち 説明と同意の必要性と配慮
5	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引の基礎知識⑤ 吸引を受ける本人家族の気持ち	講義 吸引を受ける側の気持ちを体験し、声掛けの仕方・プライバシーへの配慮・説明と同意の必要性を理解 演習 悪い事例を体験し、修正点を考える（Gワーク）
6	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引の基礎知識⑥ 呼吸器感染と予防・吸引伴う危険	講義 吸引に関連した呼吸器感染と予防 吸引により生じる危険と安全確認 急変・事故発生時の対応と医療職との連携
7	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引の実施手順① 器具の名前としくみ・清潔動作・排痰	講義 喀痰吸引で使用する器具の名前としくみ 清潔動作の必要性 排痰を促すケア（ドレナージ・口腔ケア） 【DVD視聴】口腔ケア
8	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引の実施手順② 吸引前の状態観察と準備 吸引実施中の観察と根拠 口腔鼻腔と気管の違い	講義 吸引前の情報収集と必要な観察点・準備の仕方 吸引中の観察と根拠 口腔鼻腔内吸引と気管カニューレ内吸引の違い 【DVD視聴】口鼻腔内吸引と気管カニューレ内吸引
9	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引の実施手順③ 吸引後の観察と報告・記録	講義 吸引後の観察と医療職への報告記録と連携 演習 吸引チューブを挿入し抜く体験（口鼻・気管）
10	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引の実施手順④ 吸引3項目の実施手順と根拠のまとめ	講義 口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内吸引の実施手順と根拠の復習（手引き配布・講義後回収）
11	高齢者及び障害児・者の経管栄養の基礎知識① 消化器のしくみとはたらき 嚥下のしくみと誤嚥	講義 消化器のしくみとはたらき 嚥下のしくみと誤嚥・誤嚥性肺炎 【DVD視聴】摂食嚥下のプロセス

回	テーマ	内 容		
12	高齢者及び障害児・者の経管栄養の基礎知識② 消化器症状と加齢との関係 経管栄養とは・経管栄養が必要な状態	講義	よくある消化器症状と原因 経管栄養のしくみと種類 経管栄養が必要な状態とは 【DVD視聴】経管栄養（経鼻・胃ろう）	
13	高齢者及び障害児・者の経管栄養の基礎知識③ 胃瘻腸瘻のチューブの種類と長所短所 経鼻経管栄養の長所短所	講義	胃ろう造設のメリットデメリット 経鼻経管栄養のメリットデメリット 【DVD視聴】栄養チューブの交換	
14	高齢者及び障害児・者の経管栄養の基礎知識④ 注入する栄養剤の種類と長所短所	講義	栄養剤の種類とメリットデメリット 水分・栄養不足で生じる加齢に関する変化	
15	高齢者及び障害児・者の経管栄養の基礎知識⑤ 経管栄養時に起こるトラブルと対処法 経管栄養に関する感染の危険と予防 急変・事故対応	【確認テスト3：経管栄養①】 講義	経管栄養の際に起こりうるトラブルと対応 （下痢・皮膚トラブルなど） 口腔ケアの重要性 急変時の医療職との連携	
16	高齢者及び障害児・者の経管栄養の基礎知識⑥ 子どもの経管栄養 本人家族の気持ちと説明と同意	講義	子どもと大人の消化器の違い 子どもの経管栄養の際の注意点と違い 本人家族の気持ちへの配慮・説明と同意の必要性	
17	高齢者及び障害児・者の経管栄養の実施手順① 器材の名前としくみ・清潔保持と消毒	講義 演習	器材の名前としくみ 栄養剤の違い（流動・半固形）による物品の違い 物品の消毒方法 半固形栄養剤をシュミレーターに注入する体験	
18	高齢者及び障害児・者の経管栄養の実施手順② 経管栄養前の状態観察と準備 胃瘻腸瘻と経鼻経管栄養の事前観察項目	講義	事前の状態観察と医療職からの情報収集 胃瘻腸瘻と経鼻の観察項目の違いと根拠 プライバシーとポジショニングの必要性和根拠	
19	高齢者及び障害児・者の経管栄養の実施手順③ 実施中の観察項目と根拠	講義 演習	実施中の観察項目と根拠の理解 滴下調整の体験・シリンジのエア抜き体験	
20	高齢者及び障害児・者の経管栄養の実施手順④ 実施後の観察項目・報告・記録	講義	終了後の観察項目と医療職への報告・記録 【DVD視聴】胃瘻腸瘻・経鼻経管栄養	
21	高齢者及び障害児・者の経管栄養の実施手順⑤ 経管栄養2項目の実施手順と根拠まとめ	【確認テスト4：経管栄養②】 講義	胃瘻腸瘻・経鼻経管栄養の実施手順と根拠の復習 （手引き配布・講義後回収）	
22	医療的ケア全体のまとめ：1～3章 （医療的ケア制度～吸引・経管栄養） 救急蘇生法の実施手順と根拠復習	医療的ケア全体のまとめ問題を解き、知識の定着を図る		
23	期末試験	医療的ケア演習前試験 （医療的ケア習得審査）		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト 最新 介護福祉士養成講座 15「医療的ケア」 中央法規出版 * 参考文献については、その都度提示		確認テスト 定期試験 提出物 グループワーク 授業態度	20.0% 40.0% 20.0% 10.0% 10.0%	知識習得審査 30問4肢択一式 90%以上の正解にて 合格 合格者のみ演習可

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
医療的ケアⅢ		介護福祉科/2年	2022/前期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	渡辺 美佳代(実務経験有)

授業の概要

医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう必要な知識・技術を習得する

【実務経験】 病院・福祉施設

授業終了時の到達目標

- ①喀痰吸引(口腔内・鼻腔内・気管カニューレ) : 5回目は全て「A」評価
実施をシュミレーターを使い準備から報告まで正しく安全に手順通りに実施できる
- ②経管栄養(胃ろう・経鼻経管) : 5回目は全て「A」評価
実施をシュミレーターを使い準備から報告まで正しく安全に手順通りに実施できる
- ③救急蘇生法を手順通りに実施できる(1回)

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 救急蘇生法のデモンストレーション実施	AEDを使った一次救命の演習
2	喀痰吸引・経管栄養のデモンストレーション演習	2グループに分かれて手順を覚え評価を受ける A: 喀痰吸引 B: 経管栄養
3	喀痰吸引・経管栄養の演習	2グループに分かれて手順を覚え評価を受ける A: 喀痰吸引 B: 経管栄養
4	喀痰吸引・経管栄養の演習	2グループに分かれて手順を覚え評価を受ける A: 喀痰吸引 B: 経管栄養
5	喀痰吸引・経管栄養の演習	2グループに分かれて手順を覚え評価を受ける A: 喀痰吸引 B: 経管栄養
6	喀痰吸引・経管栄養の演習	2グループに分かれて手順を覚え評価を受ける A: 喀痰吸引 B: 経管栄養
7	喀痰吸引・経管栄養の演習	2グループに分かれて手順を覚え評価を受ける A: 喀痰吸引 B: 経管栄養
8	喀痰吸引・経管栄養の演習	2グループに分かれて手順を覚え評価を受ける A: 喀痰吸引 B: 経管栄養
9	喀痰吸引・経管栄養の演習	2グループに分かれて手順を覚え評価を受ける A: 喀痰吸引 B: 経管栄養
10	喀痰吸引・経管栄養の演習	2グループに分かれて手順を覚え評価を受ける A: 喀痰吸引 B: 経管栄養
11	喀痰吸引・経管栄養の演習	2グループに分かれて手順を覚え評価を受ける A: 喀痰吸引 B: 経管栄養
12	喀痰吸引・経管栄養の演習	2グループに分かれて手順を覚え評価を受ける A: 喀痰吸引 B: 経管栄養
13	喀痰吸引・経管栄養の演習	2グループに分かれて手順を覚え評価を受ける A: 喀痰吸引 B: 経管栄養
14	喀痰吸引・経管栄養の演習	2グループに分かれて手順を覚え評価を受ける A: 喀痰吸引 B: 経管栄養
15	喀痰吸引・経管栄養の演習	2グループに分かれて手順を覚え評価を受ける A: 喀痰吸引 B: 経管栄養

教科書・教材

評価基準

評価率

その他

テキスト 最新 介護福祉士養成講座 15「医療的ケア」 中央法規出版 *参考文献については、その都度提示	実技評価 質疑応答 演習態度	80.0% 10.0% 10.0%	
---	----------------------	-------------------------	--